

平成30（2018）年度
自己点検・評価報告書
（抜 粋）

鎌倉女子大学 幼稚部

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の園運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神に基づいて、下記の教育目標をもち、教職員で協力して実現化を図る。 ～人・物・時を大切にし、感謝の気持ちをもって園生活を送る子どもを育てる～ ～遊びを通して豊かな体験ができるようにし、たくましく生きる子どもを育てる～ <目指す子どもの具体的な姿> ①人と親しみ、人とかかわることに喜びを感じる子ども ②物を大切にし、扱い方を自分で考え、自分で工夫する子ども ③様々なことに意欲的に挑戦し、一生懸命取り組む子ども ④生活のなかで、ありがとうの言葉が自然に出る子ども ⑤ルールを守り、けじめのある生活を送る子ども
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育目標」や「目指す子どもの姿」を全教職員に周知し、年間の指導計画のなかに取り入れ、日々の保育の反省のなかでも、意識して話題に取り上げるようにした。また、保護者にも、懇談会や「幼稚部だより」などを通して伝え、家庭での協力をお願いしたことで、園全体で下記の子どもの育ちが見られるようになった。 ① 身近な友だちや大人に対してだけでなく、来園した「みらいふる鎌倉（鎌倉市老人クラブ連合会）」の高齢の方などにも優しく関わり、交流を楽しむ姿が見られた。 ② 水遊び、砂遊びのなかで、「もったいないから、水道止めよう。」などの声が出自然に出るようになり、折り紙などの教材も大切に使うようになった。 ③ 廃材や、いろんな素材を使っての活動に、より工夫が見られ、普段の活動のなかでも、意欲的に創造的に取り組む姿が多く見られるようになった。本年度のみどり祭の展示なども、多くの方から高い評価をいただいた。 ④ 様々な場面で、友だちや身近な大人の人に対して、自然に「ありがとう。」の言葉が出るようになったが、家庭環境による個人差がより見られた。 ⑤ 全体的には、ルールを守り合う生活の仕方が身に付いていたが、個人の発達の違いや、家庭環境の影響もあり、個人差があった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・①については、今後も、異年齢の方との触れ合いの場面を大事にし、園児との関わりがより豊かなものとなるようにする。 ・②については、日常の場面で、物を工夫して大切に使う気持ちを、常に意識させていく。 ・④・⑤については、教職員が手本となり、保護者には、機会あるごとに、感謝する気持ちをもつことや、集団生活のなかでの「ルールを守り、けじめのある生活」を送ることの大切さについて話し、保護者と幼稚部が同じ目標をもって子育てができるように働きかけていく。

1-②	・園の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ①教材研究を行い、より良い教育環境をつくり、保育内容の充実を図る。 ②園内研究や研修などを通して、教職員の質を高める。 ③保護者との連携を深め、幼稚部教育への理解を得て、保護者と共に子育てをする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境をより良いものにしようという意識を、全教職員がもち、園内研修において、各クラスの保育環境を全員で見合い、話し合ったことで、互いに良い刺激を受け、保育環境をより工夫していくことができた。その結果、保育の質を高め合うことができた。 ・新たなことを始めるときには、事前に保護者への丁寧な説明を行ったことで、保護者の不安を増大させずに、理解を得ることができた。 ・行事後のアンケートにおいても、園教育に対して高い評価を得ることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の質を高めるという意識を、全教職員が持ち続けていくことができるよう、折に触れて話すとともに、園内研修に更に力を注いでいく。 ・保護者との連携においては、保護者の性格や環境などを踏まえて、細やかに対応していくことが必要となってくるが、教員の言葉を聞いて、再び悩む保護者の姿も見られた。そのため、教員が保護者の様子に応じた言葉遣いをしたり、配慮して関わったりできるように指導をしていく。 ・行事後のアンケートを出していない保護者もいることを踏まえ、特にそのような保護者に対しては、思いを気軽に話していただけるように、日常の場面で意識して関わっていく。 ・令和元(2019)年10月より、幼児教育の無償化が実施されることで、更に教育水準の高さが求められる。その状況に対応できる幼児教育を目指すために、新たな教育内容を加えたり、現在の教育内容を精査したりしていく。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 4月当初の職員会議で教育課程について話し合い、学年ごとに指導計画を作成することにより、教職員間で共有できるようにする。 3学年を通しての教育課程が、幼児の実態に即しているか、学期ごとに全教職員で検証し、次学期に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程については、教職員間で共有し、学期ごとに見直しを行い、実際の保育に生かしていくことができた。 学期初めや行事のときなどは、教育課程に基づき、特に綿密に保育活動の検討を行ったことで、幼児の実態に即し、更に充実した内容の保育を実施することができた。 教育課程についての話し合いの場面では、生活習慣や技能面での個人差に触れるようにしたことで、保育のなかでどのように配慮すべきか、全教職員の意識を高めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も、教育課程のなかに、生活習慣や技能面に関する項目を組み込むとともに、家庭との連携を密にして、指導の強化を図る。

2-②	・年間の指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の指導計画や週案は学年間で話し合っ提出するようにし、全教職員がその内容を把握し、連携し合っ保育にあたるようにする。 ・週案作成にあたっては、学年ごとに前週の金曜日に反省を行い、次週に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・週案作成にあたっては、全学年が、可能な限り同室で行うようにしたことで、学年の発達の理解もスムーズとなり、各学年の幼児に即した保育活動も実施していくことができた。 ・週案の打ち合わせを定期的に行ったことで、同学年の担任同士が、同じ方向性を持ち、連携をし合っ保育にあたることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な週案の打ち合わせについては、忙しくなると、なかなか、その時間が取れなくなってしまうことが課題である。 ・どのような時でも、保育の反省をしながら週案作成ができるように、金曜日は、優先的に振り返りの時間を取るようにする。 ・全学年が、同室で週案作成を行えるようにしたことで、互いの学年の様子を知りながら、作成ができるようになった。このメリットを十分に生かせるようにする。

2-③	・教育週数、1日の教育時間が適切に確保されているか。
取組目標	・文部科学省の基準を守った上で、幼児の実態を考慮した無理のない教育週数、教育時間のなかで保育を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・入園初期や長期休業後の保育時間を、幼児に無理のない保育時間に設定し、少しずつ通常の保育時間に移行したことで、幼児の集団生活への適応がスムーズに行われた。 ・週の半ばの水曜日の午前保育は、集団生活の疲れを癒す上でも幼児には必要であった。 ・上記の内容を考慮した上で、1年間を通しての教育週数や教育時間は十分に達成することができた。
今後の課題 と改善策	・今後も、幼児に無理のない範囲で、教育週数、教育時間を適切に確保する。

3. 指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領の内容や設置者が定める基準（学則）にのっとり、幼児の発達に即した指導が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領を全教職員で共通理解し、幼児の実態に即した指導を丁寧に行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週の打ち合わせや、日々の保育後の全体ミーティングのなかで、幼稚園教育要領に基づいた各幼児の姿について具体的に話し合ったことで、幼児の姿を共通に捉えて関わっていくことができた。 ・ 園内研修や外部の研修においても、幼児の発達の姿についての理解を深め合うことができた。 ・ 新教育要領の示す「就学前までに育てたい姿」を意識し、学期ごとに、学年で確認しあったことで、更に必要な部分を指導項目とすることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領の内容を理解することを、園内研修でも行い、全教職員で共有し、保育の中に生かしていく。 ・ 新教育要領の示す「就学前までに育てたい姿」を、学期ごとに教育課程の見直しをする際には、意識して必ず話し合いの中で押さえていくようにする。

3-②	・日々の保育において遊具・用具の活用が図られているか。
取組目標	・書籍研究や研修などを通して、全教職員で活用の仕方を学ぶ機会をつくり、保育のなかに生かしていく。
取組内容 と成果	・現在ある遊戯や用具を再点検し、全員で活用の仕方を検討し、実際の保育に生かした。また、新たに購入した遊具・用具を保育に生かしていくことができた。 ・週案の打ち合わせの時や、園内研修の時などに、各学年での遊び方の様子を伝え合ったり、他の幼稚園の見学で得た活用の仕方を参考にしたりして、より効果的な遊具や用具の使い方を実践することができた。
今後の課題 と改善策	・園庭の遊具だけでなく、保育室の遊具や用具についても、幼児にとって分かりやすく片付けられるよう工夫し、より使いやすくする。

3-③	・園行事が適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	・怪我や事故のないように、幼児の動きに十分に配慮した内容を園行事の計画のなかに盛り込んで行事を行う。 ・保護者も参加する園行事の際は、地震等の災害を想定した際の保護者の動きも盛り込んで実施する。
取組内容 と成果	・行事においては、幼児や保護者ともに大きな怪我もなく、事故が起きることもなく、無事に終えることができた。
今後の課題 と改善策	・今後も気をゆるめることなく、園行事の実施にあたっていく。

3-④	・チーム保育などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	・担任とフリーの教員が連携を取り合って保育にあたる。
取組内容 と成果	・日々の保育前に、担任とフリーの教員の動きを確認し合い、保育後には反省を行って、反省点を翌日の動きに活かしていくようにし、連携をとりながら保育を進めていくことができた。
今後の課題 と改善策	・園全体のなかで、フリーの教員の役割が更に活かされるよう、フリーの教員の動きについて、全教職員で改善策を話し合い、速やかに生かす体制をとっていく。

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校 3 部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼小連携など園・学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・中・高等部との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校ならではの良さと特色を生かした幼稚部運営を行う。 ・他部との連携をより丁寧にとり、様々な取組みが生きたものとなるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部、中・高等部との交流が、互いに有意義なものとなるよう、内容を吟味し、打ち合わせも丁寧に行ったことで、より良い交流をすることができた。 ・初等部との合同研修会も、実際の教育の様子を伝え合う内容だったため、互いの教育内容を具体的に知っていくのに、大変有意義なものとなった。 ・初等部への内部進学率を上げていくために、幼稚部としてできることは精一杯行ったが、十分な結果にはつながらなかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部への内部進学者が増えていくよう、次年度も初等部と細やかに連携を取りながら、入学希望者に必要な情報を適切に伝えたり、初等部進学者から具体的な初等部の良さを伝えていただいたりするなどの対策を講じていく。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の教員や学生の力を可能な限り活用し、幼稚部の教育がより充実したものとなるようにする。 ・園内研修の際には、可能な限り大学の教員に参加を要請し、指導を仰ぐ。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や普段の活動のなかで、多くの学生ボランティアの協力を得ることができ、幼児や保護者にも大変好評であった。 ・児童学科の教員からの依頼により、保育者養成校向けのテキストに、幼稚部の子どもたちの写真が多数使用された。客観的に自分たちの保育をとらえる貴重な機会となり、幼稚部にとっても良い経験となった。 ・実習生との触れ合いは、幼児にとっても楽しい経験となった。 ・大学教員による特別講演会を幼稚部からの提案で、「お弁当づくりー簡単、アレンジレシピのご紹介」をテーマに管理栄養学科の教員に講演を行っていただいた。 ・「学生ボランティア」は、直接幼児と触れ合うことで、幼児を心から愛しいと思う気持ちや、子どもが持っている素晴らしさなどを、実感として感じる事ができたようだ。将来、学生自身が現場に入った時には、保育者としての重要な力として生かしていけると思う。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、実習生を積極的に受け入れていくようにするなど、学生と幼児との触れ合いの機会を意識して作る。 ・大学関係の催し等には、次年度も積極的に参加を呼びかけていく。 ・園内研修では、大学の教員から指導を仰ぐ機会を作る。 ・大学の施設利用の機会を、意識して作っていく。

4. 保健管理

4-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に基づき日常の保健管理を適切に行う。 ・保健センターと連携を取り合い、疾病予防、健康診断を適切に行う。 ・家庭とも連携をとりながら、日常の健康観察を細かに行う。 ・健康を考えた食育を行う。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に基づき、日常の保健管理を適切に行う。 ・疾病・感染症予防のための取組、健康診断を適切に実施する。
取組内容 と成果	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健センターと連携をとりながら、幼稚部の保健担当が中心になって、適切に疾病予防、健康診断を実施することができた。 ・インフルエンザ等の感染症が出たときは、保健センターの指示を仰ぎながら、家庭とも連携をとり、適切に対応して、学級閉鎖や学年閉鎖をすることもなく感染症の拡大を防ぐことができた。 ・調理活動では、その時期にふさわしい野菜を多く取り入れたり、野菜の栄養についての話をしたりするなどして、無理のない形で食育を行い、保護者からも好評を得ることができた。 ・学園の敷地内の果物などを、園児と共に収穫し、季節を味わわせることができた。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画に則り、適切な保健活動を行った。 ・毎月、保健目標に沿った内容で「ほけんだより」を作成し、家庭での健康管理について啓蒙することができた。 ・手洗い、うがい、室内の換気を日常的に実践し、感染症の蔓延防止に努めた。 ・園内に手指消毒用アルコールを常設し、餅つき行事や調理活動には感染性胃腸炎予防にも効果的な手指消毒アルコールジェルを活用した。 ・インフルエンザ等の感染症発生時は園児の欠席状況を毎朝確認し、クラス・学年での流行状況を把握した。 ・6月の歯磨き指導は、園児の発達段階に応じて学年ごとに目標を定め、年少は歯を磨くことの大切さに気がつくこと、年中・年長については自分で歯を磨けることとし、実際に歯ブラシを使っての練習も取り入れた。 ・健康診断をより円滑に実施するために職員用マニュアルを作成した。保健担当と共有し、健康診断時に活用した。 ・健康診断の事後措置後、夏休みが明けても受診報告のない家庭については担任を通して複数回受診を勧めた。その結果、受診率は昨年89.3%から92.7%に上昇した。
今後の課題 と改善策	<p>【幼稚部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーを持っている園児や、生まれながらの病気を持っている園児に対しての対応の仕方については、引き続き、保護者・担任・保健センター職員が揃った場合に部長（園長）も同席して、対応を共有できるようにする。また、その内容については、他の教職員にも報告し、幼稚部全体で同じ対応ができるようにしていく。

	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none">・欠席状況の記録は感染症発生時のみ行っているため、感染症が発生してから園内の流行状況を確認していた。欠席の記録を通年で実施することで、感染症の早期発見と、園内での流行防止に努める。個々の欠席事由にも注目し、健康問題の早期発見に役立てる。・現在の歯みがき指導の内容が 3 年目を迎える。年少、年中で指導してきた内容を年長児がどの程度理解し、実践しているのかを確認するとともに、次年度に向けて内容を精査する。
--	--

5. 安全管理

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・園事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・園舎や通園路等の安全点検や教職員・幼児の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や用具の安全点検を日々行い、安全に十分留意した保育を行う。 ・危険な状況が起きた場合を想定して保育計画を作り、教職員の動きを訓練する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を守るための計画を、再度見直して全教職員が確認できるようにしたり、ヒヤリハットマップの点検をしたりしたことで、教職員の安全対応能力と意識が更に高まっていった。 ・日々の保育の振り返りのなかで、安全管理についても反省をし、反省点があれば、翌日に生かすことを継続したことで、大きな怪我や事故もなく、幼稚部の運営を行うことができた。 ・朝の準備のなかで、安全を確認してから保育に入るようにしたため、怪我や事故の予防も行うことができた。 ・手作り遊具での怪我が起きたことは、大きな反省点であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭での遊具の取り扱い方、教員の動き等について、再確認し、危険と感じた場合は、その都度、教員同士で連携を取り合って安全対策をしていくようにする。 ・次年度は、新任教員が入ってくるため、再度、全教職員で確認し合い、共通の認識を持って安全管理ができるようにする。 ・遊具の使用にあたっては、使用前に安全性を十分に確かめるとともに、教員の動きについても、より注意深く確認を行っていく。

5-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災計画を整備し、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・引き取り訓練等を通じて、各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部独自の避難訓練を 10 回、岩瀬キャンパス全体の防災訓練を 2 回、防災訓練内で消火器取扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各 1 回行った。 ・保護者対象の行事として引取訓練を 2 回、救命救急講座を 1 回行った。保護者の防災意識を高め、AED の使用法や心肺蘇生法等を学んでいただいた。 ・それぞれの訓練において、園児・保護者・教職員が、安全確保のための基本行動を再確認することができた。 ・「塩おにぎりの日（昼食時に塩おにぎりだけを園児が食べ、食べ物の大切さを学ぶ催し。）」や防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、園児の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、管轄消防署と相談を行いながら、園児や保護者を含めた有事に対応できるような訓練を今後も継続したい。なお岩瀬キャンパス全体の防災訓練を、これまで 2 回とも消防署立会いのもとで行ってきたが、消防署からの勧めがあり、次年度からは 2 回のうち 1 回を消防署の立会いの無い自主訓練の形式で行う予定である。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、初等部や中・高等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。

6. 組織運営

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・園長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が互いを思いやりあいながら、楽しく意欲的に勤務できるように、部長（園長）は、次長と共に率先して温かい職場の環境をつくる。 ・教職員が同じ思いで幼稚部の教育に情熱を傾けられるように、部長（園長）は、リーダーシップを発揮して幼稚部の運営を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・部長（園長）、次長と共に、温かい職場の雰囲気作りを目指し、環境を作り努力したことで、意欲的に自信をもって仕事をする教職員が多くなった。若手の教職員も、保育者としての成長が著しく、保護者からも信頼されるようになった。 ・保護者から様々な行事ごとに子どもの成長に対する感謝があり、教職員たちはやりがいを感じる事ができたようである。 ・若干名、働き方の面で助言が必要な教職員がいるので、意欲的な教職員の良い影響を受け、改善していけると良い。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が幼稚部のために頑張ろうとする雰囲気になるよう、部長（園長）は、次長の協力を得ながらリーダーシップを発揮していく。 ・次年度は、新任教員を迎えるため、みんなで育ち合いながら、更に、幼稚部の教育がより良いものとなっていくようにする。 ・助言が必要な教職員には、個人的に対応しながら、全体的な職場の良い雰囲気を保っていけるようにする。

6-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりが、自分に与えられた園務について責任を持って行う。 ・他の人に迷惑をかけないように、期日を守りあう。 ・報告、連絡、相談を守り合って、園務がスムーズに遂行されるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の園務の適切な引き継ぎにより、滞りなく次の担当者が業務を進めることができた。 ・教職員同士が互いに声を掛け合い、助け合いながら園務を遂行したことによって、園運営をスムーズに行うことができた。しかし、十分とは言えない教職員もおり、今後も指導が必要であると感じている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、新たに着任する教員がいるため、園務の業務や保育に支障をきたすことのないよう、うまく時間配分ができるように仕事の進め方のアドバイスをし、スムーズに遂行していけるようにする。 ・十分に対処できない教職員に対しては、頑張りをその都度認めて、より意欲が湧くようにしたり、研修に積極的に参加してもらったりして、良い刺激を受ける機会を増やす。

6-③	・職員会議等が園運営において有効に機能しているか。
取組目標	・学期初めや、大きな行事前、必要と思われる時には、必ず職員会議を行い、教職員が同じ思いを持って取り組んでいけるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が共通認識のもと、同じ思いで保育や園運営に臨めるように、物事を始める前には、その都度、教職員の動きを再確認するようにしていったため、行事等においても、スムーズな運営をすることができた。 ・教職員共通の場所の使い方や動きなどを、全教職員で守り合い、気持ちよく生活を送ろうとする雰囲気ができていた。
今後の課題 と改善策	・今後も職員会議を有効に機能させ、全教職員が思いを同じにして園運営にあたっていけるようにする。

6-④	・各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	・文書や情報が外部に漏れないよう適切に管理し、教職員にも必要に応じて、その都度、適切に周知する。
取組内容 と成果	・これまでも教職員には、十分に周知してきたため、問題が起きることはなかった。 また、退職する教職員にも適切に対応してきた。 ・文書や情報管理は、責任を持って部長（園長）と次長が行い、問題はなかった。
今後の課題 と改善策	・今後も引き続き、適切に対応していく。

7. 研修（資質向上の取組）

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保育研究を全教員が行うことや、保育研究を継続的に実施することなどを通じ、指導改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究を定期的に行い、全教職員の保育向上を目指す。 ・園内研究の在り方を工夫し、より有意義な内容となるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が互いの保育室環境を見合い、話し合いをしたことで、互いに刺激を受け、それぞれの良さを学び合うことができた。その結果、環境の整備にも力を入れていくようになり、保育の質も高まった。特に、保育室の掲示の仕方や、教材の使い方に、更なる工夫が見られるようになった。 ・公開保育や外部の研修に積極的に参加し、報告会も随時行うようにしたことで、保育者の子ども理解や保育技術をより高めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、幼稚部として理解を深めていく必要のある、造形活動や運動遊びなどに視点を持った園内研究を行っていききたい。

7-②	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修・園外研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に園内研修・園外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの教職員が研修に参加できる体制を整える。 ・夏季・冬季休業期間は、園外研修の機会が多数あるため、全教職員で話し合い、より多くの研修に参加できるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が自分の目標や課題をもって研修に参加したことで、研修内容を、その後の保育に生かす姿が多く見られた。 ・研修の報告をし合う機会を必ず設けたことで、他の研修についても互いに学び合うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、全教職員が研修会に必ず参加する体制を作り、各自が学んできたことを互いに報告し合う機会を作るようにして、より多くの学びを全教職員が共有できるようにしていく。

7-③	<ul style="list-style-type: none"> ・園長等の管理職が定期的に保育観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の状況を常に把握し、必要に応じてその都度指導をしたり、保育反省に加わって助言をしたり、保育内容がより良いものとなるようにする。 ・指導が不適切な教員に対しては、その教員の心身の状態を把握するとともに、適宜指導の機会を設けるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の際は、できるだけ保育の具体的な場面をもとにした指導を心がけたため、教員も理解しやすかったようで、良い方向に変化させていくことができた。 ・教員の良いところ、得意なところを積極的に発揮してもらい、そのことを、他の教職員の前でも意識して褒めるようにしたところ、自信をもって仕事をする教員の姿が多く見られるようになった。特に若手の教員たちが、自信を持って自分の良さを発揮するようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの教員の個性や思いは、十分に受け止めながら、組織として全教職員が一定以上の力を発揮できるよう、必要に応じた指導を行っていく。 ・保育経験の長い教員は、保育内容が固定される面が見られるため、本人の気持ちや意欲を尊重しながら、適切にアドバイスをしていく。

8. 保護者・地域社会等との連携

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が園運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・保育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで育てあう幼稚園」「開かれた幼稚園」をスローガンとし、保護者の協力を無理なく得た園運営をする。 ・学生の保育ボランティアが未就園児親子クラスや幼稚部の行事・活動に積極的に参加できるよう、大学の教員と連携を取る、学生に幼稚部から直接勧めるなどをする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の行事や活動に気軽に参加し、手伝えるような内容を計画したため、多くの保護者の参加があり、やりがいも感じてもらうことができた。卒園してからも引き続き、応援に来てくれる姿が多くなってきている。 ・未就園児親子クラスの学生ボランティアや幼稚部の保育ボランティアには、学生に無理のない形で協力してもらえるよう、大学の教員と連携を取り合ったことで、有意義な活動をしてもらうことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園後も手伝いを継続していただける保護者が増えてきているため、次年度からは、「卒園ボランティア」という名称で、遠慮なく足を運んでいただくようにする。 ・次年度からは、「父の会」も発足予定であり、楽しく活動できる場や機会を計画的に作っていく。 ・大学の教員と連携を取り合いながら、学生ボランティアの参加できる場面や内容を、意識して作っていく。

8-②	・園公開を定期的実施しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園公開は、いつでも行うことを基本とし、幼稚部教育への理解を得るようにする。 ・在園児の保護者にも、希望があれば、いつでも園見学ができることを口コミで広めていただく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開行事の際は、より多くの方に知らせるようにしたところ、前年度よりも園見学者数が増える結果となった。 ・入園案内の資料請求者には、必ず園見学を勧めるようにしたため、より多くの人に直接見ていただきながら、幼稚部教育の良さを伝えることができた。 ・在園児の保護者にも、積極的に幼稚部を勧めていただき、より多くの人に見学していただくことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度もこれまで同様、気軽に園見学をしていただく体制を全教職員でとっていき、見学の際は、温かく迎える雰囲気を作っていく。

8-③	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の園への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。 ・教育相談体制を整備し、保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートや面談、懇談等を、必要に応じて実施し、保護者の思いを適切に把握して対応する。 ・保護者の要望や意見には真摯に対応し、納得が得られるまで丁寧に向き合う。 ・改善できることがあれば、即対応したり、次の機会に生かしたりする姿勢を見せていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容に関して、改善できることがあれば、即応じる姿勢で対応してきたため、園運営への理解度も深まり、さらに協力を得ることができた。 ・全体懇談会やクラス懇談会の機会を利用し、必要なことは早めに知らせ、疑問や質問には丁寧に答えるようにしてきたため、大きな混乱や問題はなく、園運営を進めることができた。 ・行事等では、必ずアンケートをとり、質問や疑問があれば、即答え、改善できることは改善するようにしたことで、保護者も協力的な気持ちで、アンケートに回答するようになった。 ・保護者の園理解と、協力の姿勢は、より深まってきており、他の幼稚園等に通っている方にも、幼稚部の良さを伝えてくださる方が増えてきている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての保護者の理解を得るには時間がかかることもあるため、今後も繰り返し、個別に丁寧な対応をしていくことを心がける。 ・何か新しいことを始める際や物事を変更したりする際には、意義や良さなどについて、より丁寧な説明を行うことに十分留意し、保護者の要望等にも耳を傾け、適切に対応していく。 ・共働き世帯が増えてきたことで、懇談会への出席率が低くなってきているが、対面して直接話すことを大事にしていくために、懇談会への出席を促せるように内容を更に工夫する。

8-④	<ul style="list-style-type: none"> 園便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 「幼稚部だより」「学年だより」「クラスだより」「園長からのお知らせ」等、必要に応じて発行し、保護者の理解をその都度得られるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて各種の便りを発行してきたことで、保護者も安心してわが子の成長を見守ることができていたようである。 急を要するときには、メール配信も行う等して、不安なく的確に情報を得られるようにしたため、保護者も安心していた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、保護者が不安にならないよう、早めに便りを出したり、メール配信をしたりする。 「幼稚部だより」や「クラスだより」等を読むための時間を十分にとれない保護者がいるため、各種の便りは、要点を絞る、読みやすくするなどの配慮を更に行っていく。また、ホームページのブログで子どもの様子を知らせることも、更に増やしていく。

8-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の実情や要望による預かり保育が適切に実施されているか。 ・園や教職員による受入れ体制が十分に整っているか。 ・預かり保育の実施について、幼稚園の目的、教育課程との関連、幼児の負担、家庭との連携等への配慮が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の場が、保護者にとっても、幼児にとっても安心して過ごせる場となるようにする。 ・預かり保育が、幼児にとって無理がないように、保護者と連携しながら進めていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方 6 時までの預かり保育や、長期休業中の預かり保育は、共働き世帯に大変好評で、利用する人数も増えてきている。 ・預かり保育の内容をより充実させたことで、預かり保育を多く利用している子どもたちも預かり保育を楽しみにしている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は、共働き世帯がますます増えていくことが予想されるため、預かり保育の時間や預かり方、教職員の手配等も、臨機応変に対応し、保護者が預けやすいように配慮していきたい。 ・次年度からは、幼児教育の無償化で、預かり保育の料金支払い方法も変わってくるため、スムーズな事務手続きができるようにしていく。

8-⑥	・保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動が適切に実施されているか。
取組目標	・地域の方に向けた子育て支援活動を、可能な限り行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公開行事や見学の際に、子育ての相談を受け、また定期的な相談にも対応することで支援活動を行った。 ・「幼稚部へようこそその会」への参加者が増えてきているため、このなかでも、可能な範囲で子育て相談などの支援活動ができた。 ・子育てで悩みを抱えている保護者に対しては、いつでも相談を受け付けるようにしたことで、保護者の悩みを軽減する支援ができた。 ・保護者に向けての支援活動は、概ね達成できているが、地域の方に向けた子育て支援活動は、やや未達成と感じている。今後、地域の方の参加も含めた子育て講演会などに取り組んでいけるよう検討している。
今後の課題 と改善策	・入園希望者への相談活動及び在園児保護者の子育てに関する悩みや相談を、子育て支援活動の一つとしてとらえ、内容を充実させたい。その機会を意識してつくっていききたい。

8-⑦	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	・地域に出かけたり、地域の方との交流を進めたりして、幼児が豊かな体験をできるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の神社には、夏祭りのお神輿づくりや七五三のお参りなどでお世話になり、幼児たちも、貴重な体験をすることができた。 ・遠足による、鎌倉の名所歩きは、園児や保護者にも喜ばれる体験となった。 ・書道やわらべ歌などの指導に、外部よりボランティアの講師を招いた。貴重な体験をすることができ、園児にも保護者にも好評だった。 ・地域の施設に出かけて、そこでの交流を深める機会を十分にとれなかった点を、やや未達成と感じている。 ・「みらいふる鎌倉（鎌倉市老人クラブ連合会）」の方たちとの交流を、本年度初めて行ったが、園児にも、ご高齢の方たちにも意義あるものとなった。 ・保護者のなかには、プロの音楽家、画家の方がいたため、音楽や絵の本物の良さを子どもたちに直接伝えることができた。保護者にも、大変好評であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の近隣の施設にも、多くの面白い体験ができる所があるため、保育のなかで積極的に出かけるようにしていくとともに、多くの人と触れ合う場面を意識して作っていく。 ・今後は、地域の施設にも積極的に出かける機会を作れるように、保育計画のなかに盛り込んで、実施できるようにしていく。 ・保護者のなかには、素晴らしい力を持っている方が、多数存在するため、その力を発揮する機会を積極的に作っていききたい。 ・子どもたちにとって、より有意義な交流の機会となるように、次年度も「みらいふる鎌倉」の高齢者の方たちとの交流を計画していききたい。

8-⑧	・教育実習生の受入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	・実習生の受け入れは、積極的に行い、教職員の協力体制のもと、意義ある実習を行ってもらう。
取組内容 と成果	・希望をした学生はすべて受け入れ、どの学生も最後まで実習を終えられるよう支えることができた。実習生にも好評であった。
今後の課題 と改善策	・今後も、可能な限り実習生を受け入れ、意義ある実習ができるように協力していく。

9. 入試・広報活動（情報提供）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育活動についての説明会を実施したり、入園案内を配付したり、ホームページを活用するなど、園に関する様々な情報が、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに園長名、園の所在地、連絡先、学級数、幼児数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・幼児等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園児募集に向けて、園の教育活動の実際や情報を、多様な媒体を用いて分かりやすく伝えていく。 ・ホームページの効力を最大限に生かしていくために、内容を工夫し、タイムリーに更新していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容を工夫し、タイムリーに更新してきたことで、アクセス数も増え、幼稚部教育を多くの方に周知することができ、入園者の増加にもつながった。 ・ホームページでの資料請求者には、積極的に見学を勧めたところ、遠くの地域からの入園者の増加にもつなげることができた。 ・引っ越しで来られる方も、ホームページを見て入園を決められる方が多かった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページで幼稚部の様子を知ろうとする方は、ますます増えてきているため、これまで以上にホームページの内容を、読みやすく、より充実させていくことに力を注いでいく。

9-②	<p>・幼稚部の募集力向上における支援が適切に行われているか。</p>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の募集業務補佐と支援の充実を図る。 ・募集人員充足に向け、①入園案内制作、②見学会「幼稚部へようこそその会」・公開行事・説明会等の運営支援、③広報媒体等への掲載交渉、④ホームページの掲載情報更新支援等を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・入園案内、ポスター、募集要項の制作支援を行った。デザイン選定、撮影、校正、入稿、納品までの一連の流れについて幼稚部との連携を密にし、制作会社との連絡、交渉、調整等の業務を担った。 ・入園案内等のデザインについては、学園として求められている品の良さ、落ち着きがあり、且つ、幼稚園らしい楽しげなものとなるよう、レイアウトや色使いについてきめ細かく打ち合わせをした。 ・大手幼児教室、学習教材会社、地域の子育て支援団体（NPO 法人）が発行する幼稚園受験情報誌のアンケート回答、記事の作成を行い、幼稚部の基本情報及び入園検定に関する情報を提供した。発行元がターゲットとする購読者層が少しずつ異なると想定されるため、多様な層へ情報を発信することができたと考えている。 ・鎌倉市発行の広報誌、子育て支援情報誌へのアンケート回答、記事の作成及び広告の掲載を行った。広告は入園案内・ポスターのデザインを活用し、連動の効果を狙った。妊娠・出産期にある家庭、また、鎌倉市への新規転入者に対する広報ができた。 ・ホームページは年度当初にトップページをはじめとした各ページの新たな写真への差替え、見学会・公開行事、願書配布・入園検定の日程の掲載、その他文言等の修正を行い、古い情報が掲載されたままの状態にならないよう、また、日常的にも不備がないかを確認した。 ・見学会「幼稚部へようこそその会」における運営支援及びブログ掲載用の写真撮影を行った。次の回への参加につながるよう、会の流れや参加者の様子が分かりやすく伝わる写真の撮影を心掛けた。 ・湘南地区の私立小学校フェスタ（附属幼稚園コーナー）への出展支援を行った。主催者との事務連絡からブースづくり、当日の運営支援を行った。パネル写真の選定については幼稚部教職員と連携して丁寧に行い、効果的なブースづくりを実現した。当日は幼稚部教職員と共に、部長（園長）・次長との個別相談につなげるべく、幼稚園コーナーに立ち寄る来場者に対して、家庭ごとに丁寧に対応した。 ・初等・中等接続教育推進プロジェクト会議を開催した。議題通知、資料作成依頼段階で各部教員と事前に共通認識を持ち、有意義な議論が行えるよう配慮した。幼稚部から高等部までの現状と課題を共有し、各部の戦略的な募集力向上を図った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部の募集定員の充足維持に向け、幼稚部教職員の募集活動の支援充実を図る。 ・計画的な募集活動の補佐に加え、保育活動を効果的に伝える行事運営の支援などを行い、志願者数の維持と更なる向上を図る。 ・幼稚部・初等部間の進学接続支援に努める。初等部の募集行事の開催通知、初等部の雑誌掲載などの情報がもれなく伝わるよう、支援する。

10. 教育環境整備

10-①	・施設・設備の整備・活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に点検をし、必要に応じて修理を行って安全に使いこなしていく。 ・施設・設備の効果的な使い方を、全教職員で書籍や研修から学び合う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に点検をしていったことで、修理も早めに行うことができ、安全な使い方をすることができた。 ・園庭の遊具を増やし、整備したことで、子どもたちの園庭での遊びがより豊かになった。 ・子どもたちにとっては楽しい手作り遊具ではあったが、怪我が起きたことは、大きな反省点であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の反省を生かし、施設・設備の効果的な使い方や安全な使い方をしていくために、全教職員で安全な使い方について理解を更に深めるための研修をしたり、定期的に安全点検をしたりしていく。

10-②	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する。 ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で園児が幼稚園生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・教職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。 ・空調設備等設備機器経年劣化による不具合への対応を行った。 ・岩瀬キャンパスに保管している PCB 安定器分別作業、濃度分析を行い、平成 31 (2019) 年度初旬には処分完了予定である。 ・プール棟浴槽内のタイル下地に浮きがみられたため、安全対策工事を行った。 ・創立 80 周年記念事業に備えて、敷地測量調査、ボーリング調査、電波障害調査、地歴調査を行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・委託業務の内容などが実状に合わせたものになるよう見直しを図る。 ・創立 80 周年記念事業として岩瀬キャンパス再整備を計画している。その内容を踏まえて、設備整備計画を見直し、実行する。

10-③	・遊具・用具・図書等の整備や園教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具・用具・図書等の整備を全教職員で定期的に行う。 ・ホームページや掲示板を効果的に使い、園教育をより多くの人に知らせていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や用具に関しては、帰りの打ち合わせ時等に話題にし、必要があれば整備をする等した結果、修理をしながら大切に使うことができた。 ・図書に関しては、保護者のボランティアにも手伝いを得たことで、修理をしたり、整理整頓をしたりしながら使うことができた。 ・園庭遊具・用具の整備にあたっては、定期的に教職員で確認し合い、危険な箇所があれば、速やかに修理したり、怪我が起きた場合には、その原因をみんなで確認し、改善策を考えたりすることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も定期的に、整備をしたり、整理整頓をしたりして、適切に使っていきけるようにしていく。 ・新しくなったパソコンやカメラは、保育のなかでも、より有効に使っていきけるよう、他の幼稚園の様子を参考にする等し、教職員でアイデアを出し合う。

11. 事務支援体制

11-①	・ 幼稚部の教育活動における支援が適切に行われているか。
取組目標	・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓口での来校者対応や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切且つ丁寧な対応に努めた。 ・ 各自治体による「私立幼稚園就園奨励費補助金」の申請交付事務に関して、自治体により処理が異なり煩雑さは否めないが、経理部と協力し迅速且つ正確に処理を行うことができた。 ・ 預り保育代金の徴収を新たに保護者の銀行口座からの引落しの方法で実施した。会計事務の簡素化に貢献した。 ・ 業者支払いの勘定伝票や預り金についての新たな帳票を、引き続き初等・中等教育支援室で作成し、事務処理の合理化・厳格化をいっそう進めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も外部との対応に関して、引き続き適切且つ丁寧な対応を心掛ける。 ・ 教材費等預り金の厳格化については、経理部や総務部、関係各部と連携し、引き続き対応を図る。 ・ 通園バスの運行については、登・降園や遠足の送迎、大船キャンパス等への移動手段として利用の機会を増やしているが、更なるバスの有効活用を行っていく。次年度からは新規に通園バスのコースを玉縄方面へ増設する予定のため、関係部門と調整し運行実現に向け準備を行っていく。

12. 自己点検・評価

12-①	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が年に1回以上定期的実施されているか。 ・全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに自己評価を行い、各自が反省点を出し合って次学期に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学期の初めや学期末に、自己評価についての話し合いをし、日常の保育に生かしていくようにしたことで、個人差はあるものの、各教職員が前向きに意欲をもって仕事を進めていく姿が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ意欲的に業務にあたっているが、個人差があることが課題である。個人差については、折に触れて、気付いたことについて助言・指導を行って、改善を図る。 ・今後も、全教職員が評価に関与し、反省点は、素直に反省して、どの教職員もより質の高い保育実践ができるようにしていく。

12-②	・自己評価の結果が具体的な園運営の改善に活用されているか。
取組目標	・自己評価の結果を教職員にも周知し、反省点については話し合いをして次年度に生かしていく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・園務の担当ごとに、自己評価の結果をもとに反省を行い、次年度に向けての計画を立てるようにしたため、改善に向けて活用することができたが、より改善が必要な教職員もいた。 ・全体のなかで、園務ごとに具体的に何がどのようにできなかったのかを共有したことで、改善や反省を促すきっかけとすることができた。
今後の課題 と改善策	・今後も自己評価の結果を謙虚に受け止め、見直しが必要な部分がある時は、必要に応じて個人指導も行いながら、園運営の改善に努めていく。